

ま な び や

目黒の学び舎から



聖契神学校ニュースレター No.13 2006年10月1日発行 発行人 関野祐二
〒153-0061 東京都目黒区中目黒 5-17-8 聖契神学校 URL <http://www.seikei-seminary.org>
電話 03-3712-8746 FAX 03-3712-8804 郵便振替口座 00190-1-85761 「聖契神学校」

主の聖名を讃美いたします。

いつも聖契神学校のため、お祈りとご支援をいただき、ありがとうございます。

ちょうど今は学期休みで、キャンパスはひっそり静かです。郵便局まで歩いたら、住宅街のそこかしこからキンモクセイの甘い香りが漂い、ほとんど切れ目なしでした。一年間にたった数日、そこに生えていることを教えてくれる木。謙虚さはそのままに、数日と言わず、キリストの香りを一年中周囲にお届けする存在でありたいと思いました。

「私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中でも、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです」(Ⅱコリント2:15)

校長 関野祐二

● 前期ようやくゴールへ

夏休み明けの一ヶ月は、学生にとって前期最後のまとめとなる最も苦しい期間。学期休みは彼方に遠く、休みぼけなどという言い訳も通用しない、試験や課題の嵐が吹きまくりです。今年体調を崩した在校生が何人もいたので祈られました(課題を軽くできなくてゴメンナサイ)。やはり、多くの在校生がそうであるように、働きながら、奉仕しながら学びを続けるのはたやすいことではありません。クラスの団結力が急速に強まるのも、例年この時期。授業時間後、自主トレや試験対策会議(!?)が行われていました(結果に結び付いたか否かは主のみぞ知るです)。クラス最後、試験や課題発表後の交わり&ご苦労さん会は、今年も異様に(?)盛り上がりました。手作りケーキやお菓子がズラリ(試験前日に何してたの?)。「学んでほんとうによかった」の一言が聞ければ、教師の苦労(というほどでもありませんが)も吹っ飛ぶというものです。新約のクラスに提言はありますか、と尋ねたら、10月出産予定のK姉(出産の無事を祈ります)が、「屋上で星を見る機会をもっと増やしてください」と。これはすぐに改善できそうです。

● 冥王星フィーバー

8月24日、「冥王星、太陽系惑星から降格」のニュースが世界を駆け巡りました。夏休み明け28日からの一週間、どのクラスでもこの真意を問われ(問わず語り?)、黒板を使って解説することに。ところで、今回の国際天文学連合(IAU)による決定は、天文学的に妥当な結論でした。もともと冥王星は、あらゆる意味で他の8惑星と異なる、メタンの氷でできた小天体。月より小さく、軌道面も大きく傾き、惑星というよりは、さらにその外側に分布している帯状のエッジワース・カイパーベルト天体(略称EKBO)からまぎれこんだ天体でした。天体観測技術の向上により、冥王星のさらに外側で冥王星よりも大きな天体が続々と発見されるにつれ、新たな惑星の定義を迫られたというわけです(モットハナシタイノテスガ、キリガナイノデコノハンデ)。

神学校のクラスでは、伝統的な教理や神学の習得とともに、原語で聖書を読み、正しくその意味を解釈し、語り伝える訓練をします。新しい資料やデータを用いると、過去の解釈の誤りがわかり、みことばの真意がより明らかになることもしばしば。主は真理の解明を人の手に委ねられ、聖書をより深く正しく理解しようとする姿勢を喜ばれる、と確信して止みません。だから教師も古びた講義ノートでは対応しきれなくなるわけで、星の勉強ばかりしてはいただけません。

● 後期から6名のお仲間が

聖契神学校は、後期10月からの新規聴講生を受け入れています。神学校がどんな場所で、その学びがどのくらいきついか楽しいか（後者ですよ！）、お仕事や働きと両立可能か、実際にやってみるまではわからないので、半年間聴講生として学び、助走をつけて来年4月より正規生へとジャンプ、これはひとつの理想型でもあります。今年度はなんと、4月よりお問い合わせを頂いた方々の半数近い6名が合格し、学びのお仲間に加えられました。今回は年齢層が私に近く、実社会や牧会現場で働いておられる方々が集まり、新たな団塊の世代(?)を形成しそうな勢い。新しい風が秋にも吹き込むなんて、ステキですね。私の担当する神学概論には、在校生4名に加え、この6名全員がなだれ込み(?)ます。どんな雰囲気のクラスになるか、お楽しみに。

● オープンキャンパスにおいでください

今年も恒例の「献身者の集い・公開授業・オープンキャンパス」がめぐって来ました。聴講生が後期から多く加えられたとはいえ、この時期に来年度以降の学びを考える方も多くおられますから、その大切さは変わりません。チャペルタイムに、この集会のため祈祷課題を出したら、そこには昨年のオープンキャンパスで来校し入学した在校生の顔がチラホラ。あの時はお客様、今はすっかり先輩神学生です。迎える側で、良き証しをしてくださいね（あくまで自然に！）。

午前のチャペル説教者は、私が聖契神学校で教え始めた10年前のクラスメンバー、今はバリバリの牧師として活躍中の大澤博己師。教育実習生のようなあの頃の失敗談をばらさないでください。その後は公開授業で、学生会主催の歓迎昼食会（証しと交わりが豊かですよ）をはさみ、午後の講演は手前味噌で私が担当。JEAや福音主義神学会で発表以来、語ることの多くなった「原理主義と福音主義」の講演をしますので、お集まりください。私たちの信仰生活に関係ある、けっこう重要なテーマだと思いますので。

ともあれ、元気ある神学校の雰囲気を現場で感じ取っていただけたら幸いです。在校生たちも、年季の入った校舎をいっしょうけんめい掃除して、心から皆さんをお迎えします。

● 聖契神学校の予定と祈りの課題

- ・ 休学中の姉妹や、病気治療中の在校生とご家族にいやしと支えがあるように。
- ・ 10月10日（火）から始まる後期授業に向けての、在校生と教師の備え。6名の新規聴講生の学びが守られるように。10月21日（土）の「献身者の集い・公開授業・オープンキャンパス」に多くの出席者が与えられ、祝福された集会となるように。
- ・ 招かれた教会での神学校デピュテーション（現状報告と支援のお願い）をほぼ月一度のペースで続けています。今後も諸教会を訪ね、神学校への理解と支援が拡大するように。
- ・ 神学校が学びの充実と教師研鑽、交わりと霊的成長、運営や経済的満たし等の各面で支えられるように。学生と教師の健康、霊性、教会奉仕、家族や働きが支えられるように。